



過去 1 年間に育児短時間勤務や育休を取得した県内の男性労働者はごく少数で、男性の育児参加が進んでいない実態が県の調査で分かりました。

2020 年 5 月 18 日付大分合同新聞 21 面

①育児短時間勤務に関する項目は今回の調査で初めて設けました。女性、男性それぞれの結果はどうだったでしょう？また、男性の育休取得率は？

女性の取得は過半数に上り、期間は「1年以上3年未満」が43.1%と最多。男性の取得は2519人中わずか9人(0.4%)で、「1カ月以上3カ月未満」が最も多かった。男性の育休取得率は4.8%。

②男性の育児参加が進まない原因にはどんなことがありますか？

「育児は女性の役目」という根強い意識が背景にある。使用者、労働者双方で男性の取得に対する理解が不十分なことに加え、人手不足の中、周囲に遠慮する人が多い。

③男性の育児参加を進めるため、県はどのような取り組みをしていますか？

啓発講座の開催や育児短時間勤務の取得推進を目的とする助成金事業を実施。本年度は県内3カ所に父親が育児の情報交換をできるモデル拠点を整備する計画。

④どうすれば男性の育児参加が進むと思いますか？ あなたの考えを書いてみよう。



1年近くの育休を取得している佐藤圭祐さん(左から2人目)子どもと触れ合う時間は「充実している」と語る。大分市

調査は労働条件や福祉の業種や従業員規模が偏らな実態を把握するため、雇用いよう選んだ県内の千事業労働政策課が毎年度実施。所に調査票を郵送し、674事業所から回答を得た。育児短時間勤務に関する項目を設けたのは初めて。女性(対象者1009人)の取得は過半数に上り、期間は「1年以上3年未満」が43.1%と最も多かった。一方、男性(同2519人)の取得はわずか9人で、「1カ月以上3カ月未満」が最も多かった。育休の取得は女性96.1%(前年度比1.5%p増)に対し、男性4.8%(同2.0%p減)。こちらも男女差が顕著に表れた。県でも未実施は「使用者、労働者双方で男性の取得に関する理解は十分ではない。加えて、人手不足の中、周囲に遠慮する人が多いようだ」と分析する。男性の育児参加を推進す

育休4.8%、時短勤務0.4% 県、助成や環境整備に力

同課は男性の子育て参加やイクボスの啓発講座を開いており、昨年10月からは育児短時間勤務の取得推進を目的とする助成金事業を開始。本年度は県内3カ所に父親が育児の情報交換をできるモデル拠点の整備を計画している。「企業や地域、県民全体が子育てに積極的に関わる環境づくりを進めたい」としている。(渡辺久典)

19年度県内事業所 男性の育児参加進まず 県がまとめた2019年度労働福祉等実態調査(6月末時点)で、過去1年間に育児短時間勤務を取得した県内事業所の男性労働者は0.4%だった。育休に入った男性もごく少数で、「育児は女性の役目」という根強い意識が背景にあるとみられる。県は本年度、父親のコミュニケーションなどに力を入れる。

男性の育児参加進まず

る県内事業所もある。大分市の社会医療法人「敬和会」は、部下のキャリアや人生を応援する上司「イクボス」の在籍を宣言。従業員には育休などで収入がどう変わるかを丁寧に説明し、不安を和らげている。同法人の大分岡病院(同市)の看護師佐藤圭祐さん(32)は昨年12月から、第3子となる長男が1歳になる今年10月まで育休を取得中。「子どもの時間が増え充実している。周囲の理解もあって休みやすかった」と語る。一方で、育児短時間勤務を取る予定はないという。「1年近くも休みさらに取得するのは申し訳ない」